

ク ラ ス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2012年度 第2回 全統記述模試

学 習 の 手 引 き 【解答・解説集】

**英 語**

【2012年9月実施】

**河合塾**



# 【英 語】

## 『学習の手引き』を読むにあたって

この『学習の手引き』には、問題の解説は言うまでもなく、その問題のねらい、さらには今後の学習に役立つ指針が書かれています。この『学習の手引き』をじっくり読むことで、十分な復習をして、入試対策に万全を期してください。

### 1. 星印について

星印は、入試のレベルから見た場合に、それぞれの出題テーマ・設問形式において、どの程度の頻度と難易度の問題であるかを大まかに示しています。学習の目安にしてください。

- ★☆☆ 基本 難易度が低く、基礎的な内容の問題。
- ★★☆ 標準 難易度が標準的で、重要度が最も高い問題。
- ★★★ 発展 難易度が高く、応用的な内容を含む問題。

### 2. 解説について

【ポイント】 正答を得るための鍵となる知識や着眼点を示します。

- ▶ 追加・補足的な解説を示しています。
- ▷ 誤った解答と、それがなぜ間違っているかを示しています。

**file** 理解しておきたい文法・構文のワンポイント解説や、語い・熟語・語法に関する知識のまとめです。

【本文解説】 長文総合問題での英文本体の文ごとの解説です。1), 2), 3) ... は文番号を示します。

### 3. 『学習の手引き』で用いた略号

S	主語(原則として名詞)
V	動詞
O(O <sub>1</sub> / O <sub>2</sub> )	目的語(原則として名詞)
C	補語(原則として名詞・形容詞・分詞)
A	前置詞の目的語
X / Y	成句の表現で共通関係にある要素
one's	人称代名詞の所有格
to do	to 不定詞
do	原形動詞・原形不定詞
doing	現在分詞もしくは動名詞
done	過去分詞
does	現在形
did	過去形
have done	完了形
that 節	接続詞 that によって導かれる節
wh-節	when / where / why / how / whether などに導かれる節
[ ]	言い換えることができる語句
( )	省略することができる語句
/	語句・訳語などの列挙

## 1 Listening Comprehension

### 【解答】

1. (D) 2. (A) 3. (B) 4. (A) 5. (D)

### 【配点】(15点)

各3点×5

### 【放送された英文と訳】

1) Thanks largely to the Kepler space telescope, astronomers have discovered more than 2,000 planets orbiting distant stars. 2) That's pretty good considering that until recently we knew of only eight planets in the entire universe, all of them in our own solar system.

3) The ultimate goal of the Kepler space telescope is to find worlds similar to Earth — places where there's a chance that alien life might be found. 4) Once those planets are found, we could then get a closer look at them as new, more powerful telescopes are introduced.

5) But the search for life will still not be easy. 6) So it will be important to choose the best possible targets. 7) That's the reasoning behind a new rating system proposed by Washington State University environmental scientist Dirk Schulze-Makuch, along with nine other colleagues.

8) The rating system is called the Earth Similarity Index, or ESI. 9) The index is exactly what its name suggests: it's a measure of how closely an alien world matches Earth in terms of size and temperature. 10) The temperature is important because liquid water is an essential ingredient for life as we know it: nutrients can dissolve easily in water in order to circulate to every part of an organism.

11) The size of the planet seems important too. 12) If a planet is too small, like Mars, it might not have enough gravity to hold on to its atmosphere. 13) Mars itself did have a blanket of air once, but it was probably blasted away by incoming asteroids billions of years ago. 14) If the planet is too big, gravity might have pulled in too much atmosphere, which would create crushing pressure at the

surface. 15) A world four or five times as massive as Earth might be able to support life. 16) But anything bigger than that could cause problems.

1) 主にケプラー宇宙望遠鏡のおかげで天文学者たちは、遠く離れた恒星の周りを回る2千を超える数の惑星を発見してきた。2) 最近まで私たちが宇宙全体で8つの惑星しか知らず、しかもそれらすべてが私たち自身の太陽系のものであったことを考えれば、これはかなり上出来だ。

3) ケプラー宇宙望遠鏡の最終的な目的は、地球に似た世界、すなわち地球外生命体が見つかる可能性のある場所を発見することだ。4) いったんそのような惑星が見つければ、私たちは今度は、新しくより強力な望遠鏡を導入することで、それらをさらに綿密に観察することができるだろう。

5) しかし、それでもなお生命体の探索は簡単なことではない。6) したがって、考える限り最善の対象を選ぶことが重要であろう。7) このことが、ワシントン州立大学の環境科学者であるダーク・シュルツ・マカクと9人の共同研究者によって提案された新しい評価方式の背後にある考え方である。

8) この評価方式は地球類似性指標(ESI)と呼ばれている。9) この指標はまさにその名前が示すものだ。つまり、それはある異星が、大きさや気温の点でどれほど地球に近いかを測る基準なのである。10) 気温は重要だ。なぜなら液体としての水が、私たちの知っているような生命体に不可欠な構成要素だからである。栄養素は有機体のあらゆる部分に行きわたるように、水に容易に溶けうるものだ。

11) 惑星の大きさも、また重要に思える。12) ある惑星が火星のように小さすぎれば、大気を失わずにいるのに十分な重力を持たないかもしれない。13) 火星自体はかつて確かに空気に覆われていたのだが、何十億年も前にやってきた小惑星によって空気が吹き飛ばされてしまったらしい。14) もし惑星が大きすぎれば、重力はあまりにも大量の大気を引き込んだかもしれない、そのことが惑星の表面に、押しつぶされるほど大きな圧力を生み出したであろう。15) 地球の4倍から5倍の大きさの惑星なら、生命体を維持することはできるかもしれない。16) しかし、それよりも大きなものであれば、問題を引き起こす可能性があ

るのだ。

### 【語句・表現】

- thanks to A「Aのおかげで」
- largely「主に」
- the Kepler space telescope「ケプラー宇宙望遠鏡」
- astronomer「天文学者」
- planet「惑星」
- orbit O「Oの軌道を回る」
- distant「遠く離れた」
- star「恒星」
- considering that ...「…ということを考慮すれば」
- recently「最近」
- entire「全体の」
- universe「宇宙」
- the solar system「太陽系」
- ultimate「最終的な、究極の」
- goal「目標、ゴール」
- similar to A「Aに似た」
- chance that ...「…する可能性」
- alien「異星(人)の」
- close「綿密な」
- introduce O「Oを導入する」
- search for A「Aの探索」
- choose O「Oを選ぶ」
- target「目標、対象」
- reasoning「推論、考え方」
- rating system「評価方式」
- propose O「Oを提案する」
- environmental「環境の」
- along with A「Aとともに」
- colleague「同僚、共同研究者」
- similarity「類似性」
- index「指標」
- exactly「まさに」
- measure「基準」
- closely「近く、接近して」
- match O「Oに一致する」
- in terms of A「Aの点で、Aに関して」
- temperature「気温、温度」
- liquid「液体の」
- essential「必要不可欠な」
- ingredient「材料、構成要素」
- nutrient「栄養物」
- dissolve「溶ける」

- circulate「循環する」
- organism「生物、有機体」
- Mars「火星」
- gravity「重力」
- hold on to A「Aを失わないようにする」
- atmosphere「大気」
- A itself「Aそれ自体」
- blanket「毛布、覆い」
- blast O away / blast away O「Oを吹き飛ばす」
- incoming「入ってくる」
- asteroid「小惑星」
- billions of A「何十億ものA」
- pull O in / pull in O「Oを引き込む」
- create O「Oを作り出す」
- crushing「圧倒的な、押しつぶすほどの」
- pressure「圧力」
- surface「表面」
- massive「巨大な、どっしりとした」
- support O「Oを支持する、支える」

### 【設問別解説】

#### 1. ★☆☆

#### 【放送された質問文と訳】

What is the purpose of the Kepler space telescope?

ケプラー宇宙望遠鏡の目的は何か。

#### 【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) もう1つの地球を作ること。
- (B) 異星人と接触すること。
- (C) 太陽をより綿密に観察すること。
- (D) 生命体が存在するのに適した惑星を探すこと。

第3)文に The ultimate goal of the Kepler space telescope「ケプラー宇宙望遠鏡の最終的な目的」は to find worlds similar to Earth「地球に似た世界を発見すること」であると述べられており、それがどのような世界であるかは places where there's a chance that alien life might be found「地球外生命体が見つかる可能性のある場所」で説明されている。したがって、(D)が正解。

#### 2. ★☆☆

#### 【放送された質問文と訳】

What does ESI indicate?

ESIは何を示すか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) ある惑星がどれほど地球に似ているか。
- (B) ある惑星がどれほど地球から離れているか。
- (C) ある惑星の人口がどれほどか。
- (D) ある惑星にどれほど多くの種類の希少金属があるか。

第8)・9)文の内容より、(A)が正解。

3. ★★★

【放送された質問文と訳】

Why is a moderate temperature important?  
適度な気温が重要なのはなぜか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 大気が存在するため。
- (B) 液体の水が存在するため。
- (C) 異星人が私たちに接触するため。
- (D) 天文学者たちがその惑星を探するため。

第10)文で、気温が重要であることの理由として「液体としての水が、私たちの知っているような生命体に不可欠な構成要素だから」と述べている。気温が高すぎれば水は蒸発して気体になり、低すぎれば凍って固体になってしまう。つまり、生命体に不可欠な液体としての水が存在するために適度な気温が重要だということ。したがって、(B)が正解。

4. ★★★

【放送された質問文と訳】

Why does Mars have no air?  
火星に空気がないのはなぜか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 小さすぎるから。
- (B) 水がないから。
- (C) 重力が大きすぎるから。
- (D) 太陽に近すぎるから。

第11)～13)文に、火星は小さすぎるために、空気を表面にとどめておくのに十分な重力がないという内容が述べられている。したがって、(A)が正解。

5. ★★★

【放送された質問文と訳】

According to the passage, which statement is

NOT true?

文章によると、正しくない記述はどれか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 最近まで天文学者は、私たち自身の太陽系の惑星しか知らなかった。
- (B) 地球外生命体を探すためには、注意深く目標を選ぶことが決定的に重要となる。
- (C) 火星はかつて空気に覆われていた。
- (D) 惑星は大きければ大きいほど、生命体が存在する可能性が高い。

(A)については第2)文で、(B)については第5)・6)文で、(C)については第13)文でそれぞれ述べられている。(D)の記述は、第14)～16)文に惑星が大きすぎると問題が生じると述べられていることと矛盾する。したがって、(D)が正解。

2 中文空所補充問題

【解答】

- (1) (ア) (2) (イ) (3) (イ) (4) (ア)
- (5) (イ)

【配点】(15点)

各3点×5

【出典】Japan's Cultural Code Words: Boyé Lafayette De Mente

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Foreign businesspeople in Japan are constantly being warned that the Japanese market is geographically so small and is so sensitive to everything that goes on in the business world ( 1 ) it is impossible to keep secrets.

1) 日本にいる外国の実業家たちは、日本市場は地理的にとても小さく、実業界で起こっているすべてのことに対してとても敏感なので、秘密を守り通すのは不可能だと常に警告を受け続けている。

- 1) ・are constantly being warned that ... は、現在進行形の受動態を用いた表現で「常に…と警告されている」の意味。constantlyやalwaysなどを進行形と同時に用いると「いつも…ばかりしている」、「繰り返し…している」ということを表す。
- ・that goes on in the business worldはevery-

thing を修飾する関係詞節。

- ・ 空所(1)については、【設問別解説】参照。
- ・ it is impossible to keep secrets は形式主語構文。

- businesspeople 「実業家」
- constantly 「常に」
- warn O that ... 「Oに…だと警告する」
- market 「市場」
- geographically 「地理的に」
- sensitive to A 「Aに対して敏感な」
- go on 「起こる」

#### ＜第2段落＞

2) Japanese businesspeople also appear to be proponents of the chaos theory — they seem to believe that every action, ( 2 ) small or insignificant, eventually has an impact on the rest of the world; and this is one of the reasons why the Japanese have traditionally preferred to maintain control over as many aspects of their operations as possible, from the sourcing of raw materials and manufacturing down to retailing the finished products. 3) These competitive factors in the Japanese marketplace are also used as justifications for seeking exclusive arrangements with foreign suppliers.

2) また、日本の実業家はどうかカオス理論の信奉者であるようだ。つまり、どんなにささいで取るに足らないものであれ、あらゆる行動は最終的には世の中の他のすべてのことに何らかの影響を及ぼすと彼らは信じているらしい。そしてこれが、原材料の調達や製造から出来上がった製品の小売りに至るまで、自分の事業のできるだけ多くの側面を管理し続けるのを日本人が伝統的に好む理由の1つである。3) 日本市場のこうした競争要素はまた、海外の供給業者と独占契約を結びたがることを正当化するものとしても使われる。

- 2) ・ ダッシュの後の they seem to ... of the world; の部分は、ダッシュの前の proponents of the chaos theory 「カオス理論の信奉者」であるとはどういうことかを具体的に説明している。
- ・ 「カオス理論」とは、初期条件のわずかな差が長時間経過後に大きな違いを生じ、實際上結果が予測できない現象を説明する理論のことを言う。つまり、自社の製品はすべてのプロセスを管理しておかないと、目の届かないところで起こるささい

な出来事が大きな影響をもたらすことがあると考え、日本の実業家は原材料調達から販売に至るまですべてを自社の目の届く管理下に置きたがるのだと筆者は言っている。

- ・ 空所(2)については、【設問別解説】参照。
- ・ why the Japanese ... the finished products は the reasons を修飾する関係詞節。
- ・ as many aspects ... as possible は as many A as possible 「できるだけ多くのA」を用いた表現。
- ・ from the sourcing ... the finished products は from A and B down to C 「AとBからCに至るまで」という表現。Aには the sourcing of raw materials 「原材料の調達」が、Bには manufacturing 「製造」が、Cには retailing the finished products 「出来上がった製品の小売り」が置かれている。自社製品に関するプロセスをすべて管理下に置こうとする日本の実業家の姿勢を表した部分である。

- 3) ・ These competitive factors ... are ... used as A は「こうした競争要素はAとして使われる」という意味。

- appear to be C 「どうやらCであるようだ」
- chaos 「カオス、混沌」
- insignificant 「取るに足りない」
- eventually 「最終的には、やがて」
- have an impact on A 「Aに影響を及ぼす」
- traditionally 「伝統的に」
- prefer to do 「…するのを好む」
- maintain control over A 「Aを管理し続ける、Aへの支配を保つ」
- aspect 「側面」
- operation 「事業、操業」
- source O 「Oの供給先を見つける」
- raw material 「原材料」
- manufacturing 「製造」
- retail O 「Oを小売りする」
- competitive 「競争的な」
- marketplace 「市場」
- justification 「正当とする事実、正当化」
- seek O 「Oを得ようとする、捜し求める」
- exclusive 「独占的な、排他的な」
- arrangement 「取り決め、配列」
- supplier 「供給業者」

#### ＜第3段落＞

4) Long before television and other mass media existed in Japan, it was common

( 3 ) both news and confidential information to travel to the most remote corners of the Japanese islands in a matter of days. 5) Ordinary news was carried unofficially by people like product peddlers who roamed the country, and officially by mounted messengers who were sent out by the shogunate government in Edo.

4) テレビや他のマスメディアが日本に登場するはるか以前に、ニュースも機密情報もほんの数日で日本の国土の隅々にまで伝わるのがよくあった。 5) 普通のニュースを非公式に伝えたのは、国中を歩き回っていた行商人などの人々であり、公式に伝えたのは、江戸にあった幕府によって遣わされた早馬の使者であった。

- 4) ・空所(3)については、【設問別解説】参照。
- ・the most remote corners of the Japanese islands は「日本の国土の隅々」という意味。直訳では「日本の島々の最も遠く離れた地域」となる。日本は島国なので、本州も含め islands と表現するため、the Japanese islands で日本の国土全体のことを意味している。
  - 5) ・who roamed the country は product peddlers を修飾する関係詞節。
  - ・and officially by ... は、and で unofficially by ... と officially by ... が結ばれている構文なので、Ordinary news was carried を officially by ... の直前に補って考えるとわかりやすい。
  - ・who were sent ... government in Edo は mounted messengers を修飾する関係詞節。
  - confidential 「機密の、秘密の」
  - travel 「(知らせなどが)伝わる」
  - remote 「遠く離れた」
  - corner 「地域、すみ」
  - a matter of A 「わずかA」
  - ordinary 「普通の」
  - carry O 「(記事などを)伝える」
  - unofficially 「非公式に」
  - peddler 「行商人」
  - roam O 「Oを歩き回る、放浪する」
  - officially 「公式に」
  - messenger 「使者」
  - send O out / send out O 「Oを派遣する、送り出す」

〈第4・5段落〉

6) Today, ( 4 ) the telephone, the fax,

the computer and other high-tech means of communication, the Japanese are still heavily dependent upon face-to-face meetings and discussion in their daily private and business affairs. 7) Generally speaking, the Japanese do not feel comfortable with long-distance communication, especially in important business affairs, and as a result, Japanese businesspeople have more face-to-face meetings than virtually any other people.

8) Foreigners doing business in Japan soon discover that *kuchi-komi* (meaning “word of mouth”), especially in the form of “free advertising,” ( 5 ) their advantage.

6) 今日では、電話、ファックス、コンピュータ、その他のハイテク通信手段があるにもかかわらず、日本人は今でも日常の私事や仕事上の事柄において、直接対面して話しあったり、議論したりすることに大きく頼っている。 7) 一般的に言っても、日本人は長距離の通信だと気持ちが落ち着かないのだが、特に重要な仕事上の事柄ではそうではない。その結果として日本の実業家は他のほとんどの国の実業家よりも対面式の会議をより多く行っている。

8) 日本で事業を行う外国人は、(word of mouth を意味する)「口コミ」が、特に「経費のかからない広告」の一形態として自分たちの利益になるよう利用できることにすぐに気づくことになる。

- 6) ・空所(4)については、【設問別解説】参照。
- ・the Japanese are still heavily dependent upon A は be dependent upon A 「Aに頼っている」を用いた表現で、日本人が直接会って話しをするのを重視していることが表されている。
  - 7) ・feel comfortable with A は「Aに関して気楽に感じる、Aに満足する」という意味。
  - 8) ・doing business in Japan は Foreigners を修飾する現在分詞句。
  - ・(meaning “word of mouth”) は *kuchi-komi* の説明。なお「口コミ」の「コミ」はコミュニケーションの略。「マスコミ」に対立する概念として、口伝えでの情報伝達という意味で「口コミ」という造語ができたと言われている。
  - ・空所(5)については、【設問別解説】参照。
  - means 「手段」
  - heavily 「非常に、深く」



- face-to-face「面と向かっての」
- affair「事柄、関心事」
- generally speaking「一般的に言って、概して」
- long-distance「長距離の」
- as a result「その結果」
- virtually「ほとんど、実質上」
- word of mouth「口コミ、口伝え」

### 【設問別解説】

#### (1) ★★☆☆

#### 【ポイント】関係詞の that に惑わされないようにする

空所の前に the Japanese market is ... so small and is so sensitive ... 「日本市場はとても小さくとても敏感である」という記述があるので、空所に that を入れて so ... that 構文を完成させれば ... that it is impossible to keep secrets 「…ので、秘密を守り通すのは不可能だ」となり文意も自然に通る。したがって、(7) が正解。

▷この問題の難しさは、sensitive の直後に to everything that goes on in the business world 「実業界で起こっているすべてのことに対して」という関係詞 that を含む表現があるため、すでに so ... that 構文が完成しているように勘違いしてしまう可能性があることだ。文意を考えればそのような勘違いは避けられるが、構造的に見ても、so ... that 構文では that 以下に名詞要素の欠けていない完全な文が来なければならない、本文の that goes on in the business world という主語の欠けた that 節では so ... that 構文が成立しないと判断できる。

#### (2) ★★☆☆

#### 【ポイント】譲歩の意味を表す副詞句を完成させる

空所から始まる、コンマで区切られた部分の働きを考えてみると、every action ... has an impact on the rest of the world 「すべての行動が世の中の他のすべてのことに影響を及ぼす」という文の途中にはさまれた形になっている。したがって、この部分は挿入的な副詞要素であると考えられる。そこで no matter how を空所に入れると「どんなにきさいで取るに足らないものであれ」という意味となり、文意も自然に通る。したがって、(2) が正解。

▶no matter how は形容詞か副詞を後続させて「どんなに…でも」という意味の譲歩を表す副詞節を作る。

ただし、〈主語+be 動詞〉はしばしば省略される。本文も no matter how small or insignificant it is の it is の省略だと考えるとわかりやすい。

【例】Every town, no matter how small or remote (it is), needs a school.

(どんなに小さくても、辺鄙なところにあると、すべての町には学校が必要である)

▷その他の選択肢はすべて文法上英文が成立しない。

(7) の「…しさえすれば」と (4) の「まるで…のように」は、ともに節を後続させなければならず、空所の後が形容詞だけでは英文が成立しない。(7) の whatever は「何が…しようとも」という意味の譲歩を表す副詞節を導くことがあるものの、やはり後続が形容詞だけでは英文が成立しない。

#### (3) ★★☆☆

#### 【ポイント】不定詞の意味上の主語を示すには？

空所を含む文を見ると、it was common ... to travel to the most remote corners of the Japanese islands 「日本の国土の隅々にまで伝わるのがよくあった」という形式主語構文になっている。そこで「何が」伝わるのかを考えれば、上の英文の ... の部分には不定詞の意味上の主語にあたる語句を入れればよいとわかる。空所(3)に for を入れることで both news and confidential information 「ニュースと機密情報の両方とも」が意味上の主語であることが示され、また文意も通ることから、正解は (4)。

▷(7) の of に関しては、〈It is + 人の性質を表す形容詞 (kind, careless など) + of A to do〉「…するなんて A は～だ」という構文があるが、本問の common は人の性質を表す形容詞にはあたらないので、(7) では正解にならない。

【例】It was very kind of you to drive me home.  
(家まで車で送ってくださってご親切にどうも)

#### (4) ★★☆☆

#### 【ポイント】前後のつながりから適切な前置詞を選ぶ

空所を含む文を見ると、the telephone, the fax, the computer and other high-tech means of communication 「電話、ファックス、コンピュータ、その他のハイテク通信手段」というテクノロジーを用いた意思疎通のための手段が列挙された上で、the Japanese are

still heavily dependent upon face-to-face meetings and discussion 「日本人は今でも面と向かって話しあったり、議論したりすることに大きく頼っている」というテクノロジーによらない意思疎通に頼っているという内容の節が続いている。この両者の意味関係は譲歩と考えるとぴったりつながる。すなわち, despite 「…にもかかわらず」を選択し, 「ハイテク通信手段があるにもかかわらず, 日本人は今でも直接対面して話しあったり、議論したりすることに大きく頼っている」とするのがよい。したがって, 正解は(㉞)。

▷他の選択肢は, それぞれ (㉝)が「…のおかげで」, (㉜)が「…に加えて」, (㉛)が「…という理由で」という意味で, いずれも文脈に合わず不可。

(5) ★★

### 【ポイント】 文の構造と to one's advantage

空所を含む文は Foreigners ... discover that ... 「外国人は…ということに気づく」の that 節内の構造の読み取りが肝心。主語は *kuchi-komi* (meaning “word of mouth”) であり, それに続く especially in the form of “free advertising,” は動詞にはなれず, 副詞句の挿入であると考えられる。すると空所(5)の部分に that 節中の述語となる動詞が含まなければならない。この段階で選択肢は(㉞)の used to be と(㉛)の can be used to に絞られる。次に空所の後にある their advantage に注目すると, (㉞)を空所に入れたときには「かつては彼らの有利であった」という意味になり, (㉛)を空所に入れたときには to one's advantage 「自分の利益になるように, 自分の都合のよいように」という表現を含んだ「自分たちの利益になるよう利用できる」という意味になる。本文は日本における対面式のコミュニケーションやロコミの仕事上での重要性を述べた文であることから, 正解は(㉛)だと判断できる。

▷選択肢(㉞), (㉝)は, どちらも that 節中の述語動詞を含まないので, 文法上成立しない。

## ③ 文法・語法

### 【解答】

- |   |         |          |        |        |
|---|---------|----------|--------|--------|
| A | 1. (㉝)  | 2. (㉛)   | 3. (㉝) | 4. (㉛) |
|   | 5. (㉝)  | 6. (㉛)   | 7. (㉞) | 8. (㉞) |
| B | 1. date | 2. cross |        |        |

【配点】(20点)

A 各2点×8    B 各2点×2

## 【設問別解説】

### A 空所補充選択問題

1. ★☆☆

“(How) would you like your eggs?” — “I’d like them scrambled.”

「卵はどういたしましょうか」—「スクランブルエッグにしてください」

- |           |          |
|-----------|----------|
| (㉞) What  | (㉝) How  |
| (㉜) Where | (㉛) When |

### 【ポイント】 How would you like ...?

How would you like ...? で「…をどのように料理いたしましょうか」の意味。したがって, (㉝)が正解。

▶ How would you like ...? は, 相手や客がどのような調理法で食べたいかを尋ねる場合によく用いられる決まり表現。

▶ I’d like them scrambled. は, would like O C 「O がCであることを望む」を用いた表現。

2. ★☆☆

As (far) as the eye can see, everything is covered with snow.

「見渡す限り, あらゆるものが雪で覆われている」

- |          |          |
|----------|----------|
| (㉞) much | (㉝) soon |
| (㉜) long | (㉛) far  |

### 【ポイント】 as far as the eye can see

as far as the eye can see で「見渡す限り」の意味。したがって, (㉛)が正解。

▶ as far as ... は範囲や程度を表す。本問の表現のほかに as far as I know で「私の知る限り」, as far as S is concerned で「Sに関する限り」も覚えておきたい表現である。

▷ as long as ... 「…する間は, …する限り」は期間や条件を表す。

【例】I’ll help you as long as I live.

(私が生きている限りは援助しよう)

3. ★☆☆

Would you give me some advice? I can’t decide (which dictionary to buy).

「アドバイスをいただけませんか。どの辞書を買ったらいいのか決められないんです」

- (ア) which dictionary should I buy  
 (イ) which dictionary to buy  
 (ウ) which I should buy dictionary  
 (エ) which to buy dictionary

#### 【ポイント】

##### which A to do

which A to do で「どの A を…すべきか」の意味。  
 したがって、(イ)が正解。

▶ which dictionary to buy は、can't decide の目的語になっている。このように、〈疑問詞+to do〉は、名詞句の働きをすることに注意。〈疑問詞+to do〉については、以下の **file** 参照。

▷(ア)と(ウ)は which dictionary I should buy であれば、間接疑問として正しい語順になる。

#### **file** 〈疑問詞+to do〉

〈疑問詞+to do〉は名詞句を作り、主語、補語、目的語、前置詞の目的語になる。

[例1] What to read is a very important question.

(何を読むべきかは非常に重要な問題である)

・ what to do

「何を…すべきか、…したらよいか」

[例2] The problem was when to start.

(問題はいつ出発するかであった)

・ when to do

「いつ…すべきか、…したらよいか」

[例3] None of us knew which way to go.

(どちらの道を行けばよいのか、私たちは誰もわからなかった)

・ which A to do

「どの A を…すべきか、…したらよいか」

[例4] This is a book on how to succeed in business.

(これは事業の成功の仕方についての本だ)

・ how to do

「…の仕方、どのように…すべきか」

#### 4. ★★☆☆

Don't forget to (remind) him that the meeting has been postponed.

「会議が延期されたことを彼に必ず思い出させてくださいよ」

- (ア) recall (イ) recollect  
 (ウ) remember (エ) remind

#### 【ポイント】

##### remind O that ...

remind O that ... で「Oに…を思い出させる」の意味。したがって、(エ)が正解。

▶ Don't forget to do で「…することを忘れるな、必ず…するように」の意味。

▷(ア)の recall, (イ)の recollect, (ウ)の remember はいずれも「…を思い出す」の意味。

#### 5. ★★☆☆

When we're wearing clothes that are much the same as everyone else's, we tend to (be thought) of as lacking individuality.

「他のみんなと同じような服を着ていると、個性がないと思われがちだ」

- (ア) be regarded (イ) be thought  
 (ウ) regard (エ) think

#### 【ポイント】

##### think of O as C

think of O as C で「OをCと思う」の意味。受動態は be thought of as C という語順になる。したがって、(イ)が正解。

▶ much the same as A で「A とほとんど同じ」の意味。

▷(ア)は、regard O as C で「OをCとみなす」の意味。受動態は be regarded as C の形になり、of が不要になるので不可。

#### 6. ★★☆☆

My father always says to me that even an old car is better than (none).

「父はいつも私に『古い車でも、ないよりはましだ』と言う」

- (ア) any (イ) neither (ウ) no (エ) none

#### 【ポイント】

##### 代名詞 none

代名詞 none は、先行する名詞を受けて「(そのようなものが)何も[1つも]…ない」の意味を表す。したがって、(エ)が正解。

▷(ア)は、better than any で「誰よりもよく」の意味

で用いるのがふつう。仮に、「どんな物よりよい」の意味だと考えても、文意が通らないので不可。

▷(イ)は, neither がここでは「2台の車のどちらも…ない」の意味になってしまい, 文意がいちじるしく不自然になるので不可。

▷(ウ)は, no に代名詞の働きがないので不可。本問では, none は代名詞として no car を言い換えていると考えられるが, no だけでは no car を表すことができないので, 文が成立しなくなる。

## 7. ★★★

“Bob, how's everything?” — “Fine, couldn't be (better).”

「ボブ, 調子はどう」 — 「絶好調だぜ」

- (ア) better (イ) worse  
(ウ) best (エ) worst

【ポイント】  
couldn't be better

couldn't be better は仮定法過去の表現で「これ以上よくはなりえない, 絶好調だ」の意味。したがって, (ウ)が正解。

▶本問では, Things couldn't be better. の, 漠然と物事を指している主語 Things が省略されていると考えられる。

▷(イ)は couldn't be worse で「これ以上悪くはなりえない, 最悪だ」の意味。ボブの発話の Fine「調子いいよ」と矛盾するので, 不可。

## 8. ★★★

As he has been denied (nothing) by his parents, he takes it for granted that he can get whatever he wants.

「彼は両親から与えられなかったものが何もないので, 欲しいものが何でも手に入ることを当たり前だと思っている」

- (ア) anything (イ) everything  
(ウ) nothing (エ) something

【ポイント】  
deny O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>

主節の「欲しいものが何でも手に入ることを当たり前だと思っている」という彼の現在のありようから, 「これまで両親から何もかも与えられていた」という甘やかされた育ち方をしたことが推測される。ところ

が, 空所の前の動詞 deny は, deny O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> で「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を与えない」という否定的な意味なので, これをさらに否定して「どんなものも与えられないということがなかった」という表現にしなければならない。したがって, (ウ)が正解。

▶ take it for granted that ... で「…ということを当たり前だと考える」の意味。

▷(ア), (イ), (エ)では否定を重ねた表現にならず, 主節の内容と結びつかないので不可。

## B 共通語補充問題

### 1. ★★★

- a. She took a chance and asked him for a (date).  
b. I will inform you of the time and (date) of the conference soon.  
c. That church is said to (date) back to the 13th century.

- a. 彼女は思い切って彼にデートを申し込んだ。  
b. 会議の日時をすぐにご連絡します。  
c. その教会の創建は13世紀に遡ると言われている。

【ポイント】  
date のさまざまな用法

- a. ask O for a date で「Oにデートを申し込む」の意味。なお, take a chance は「一か八かやってみる」の意味。  
b. the time and date of A で「Aの日時」の意味。  
c. date back to A で「A(時代)まで遡る」の意味。

### 2. ★★★

- a. The priest blessed her, and made the sign of the (cross) over her.  
b. Don't (cross) that bridge until you come to it.  
c. The teacher was very (cross) at being interrupted.

- a. 司祭は彼女を祝福し, 彼女の頭の上で十字を切った。  
b. 取り越し苦労をするな。(ことわざ)  
c. その教師は話をさえぎられたことにとても不機嫌だった。

**【ポイント】**  
cross のさまざまな用法

- a. the sign of the cross で「十字の印」の意味。  
b. cross the bridge で「橋を渡る」の意味。本文を

直訳すると「橋のたもとに着くまでは橋を渡るな」の意味だが、将来を心配する人に向かって「取り越し苦労をするな」といましめることわざとして使われる。

- c. 形容詞の cross で、「怒った、不機嫌な」の意味。

#### 4 長文総合問題

##### 【解答】

- 問1 (ウ)  
問2 (ア)  
問3 このようなコースでは、いくつかの語から成っている言葉なのか知るすべがなかった。  
問4 I asked in English what this sequence of sounds meant.  
問5 (イ)  
問6 水道管の水漏れを修理してもらえなかったということ。(25字)  
問7 私はとうとういらだててしまって、私のたどたどしいアラビア語で、「インシャラー」ではなくてはっきりした答えがほしいと言った。  
問8 (ア)  
問9 (ウ)

##### 【配点】(60点)

- 問1 5点 問2 5点 問3 10点  
問4 5点 問5 5点 問6 10点  
問7 10点 問8 5点 問9 5点

##### 【テーマ】

テクノロジーの進歩によって、完璧な世界言語翻訳機の開発は容易であるように思えるが、そうはいかないのが言語の世界である。異なる言語をどれだけ完璧に翻訳しようと思っても、必ず壁にぶつかるのだ。言語とはその土地で生きてきた人々の生活・文化・習慣の中で息づいてきたものだからである。本当の言語学習とは、その土地の中に溶け込んで暮らし、何年もかかって習得しなければならぬほど深いものであるのかもしれない。受験のための英語もそのような学習の第一歩になることを祈る。

【出典】 *Translation in Language Teaching*: Guy Cook

##### 【本文解説】

###### ＜第1段落＞

1) I was a young volunteer with VSO (Voluntary Service Overseas), a British international development charity recruiting idealistic and enthusiastic young people to 'help' in poorer countries. 2) I asked to go to Jamaica, but was sent to teach English in a secondary school in Upper Egypt. 3) It was 1974. 4) I had just graduated. 5) It was my first job.

1) 理想を抱き、熱意のある若者を募って貧しい国々に「援助」をさせる英国国際発展慈善基金である VSO(海外協力隊)で、私は若きボランティアとして働いていた。 2) 私はジャマイカに行かせてほしいと頼んだが、上エジプトの中等学校へ英語を教えに行かされることになった。 3) 1974年のことだった。 4) 私は学校を出たばかり。 5) それが私の初仕事だった。

- 1) ・be a volunteer with A で「A で志願して働いている」の意味。  
・recruiting idealistic and enthusiastic young people to 'help' ... は、recruit O to do 「O(人)を…するように勧誘する、募る」を用いた表現で、a British international development charity を修飾する現在分詞句。  
2) ・Upper Egypt は「上エジプト」の意味。ナイル川上流のエジプトで「南エジプト、南方エジプト」とも言う。ナイル川デルタのエジプトは Lower Egypt. 王朝誕生前のエジプト (BC 5000-3100) は、上・下エジプトに分かれていた。メネス王が上・下エジプトを統

- charity 「慈善基金、慈善団体」
- idealistic 「理想主義的な、理想家の」
- enthusiastic 「熱心な」
- ask to do 「…させてほしいと頼む」
- send O to do 「…させるために O を派遣する」
- secondary school 「中等学校」

一した。

＜第2段落＞

6) Before leaving for Egypt, I was sent on a one-week crash course in spoken colloquial Egyptian Arabic. 7) The course was up-to-date and state-of-the-art for the time. 8) It was taught by native Arabic speakers. 9) It focused on speech not writing. 10) There was considerable use of repetition, role play, and visual aids. 11) There was no use of translation or English language explanation. 12) We learnt some basic Arabic — how to introduce ourselves, say where we came from, ( 1 ), and so forth. 13) And we acted out 'realistic' situations: role-playing waiters and diners, bus-conductors and passengers. 14) In the course of this enjoyable week, we several times encountered a phrase that sounded like *in-shā'llāh*. 15) We <sup>(2)</sup>gathered, from our teacher's hand gestures and facial expressions (of the sort teachers have to use if they do not translate), that this phrase signified some kind of uncertainty. 16) <sup>(3)</sup>There was no way of telling, in a course like this, how many words were involved. 17) This *in-shā'llāh* seemed to have three or four syllables — so presumably it could be any number of words up to four.

6) エジプトに出発する前に、私はエジプト・アラビア語の日常会話の1週間短期集中コースに行かされた。7) そのコースは、当時としては最新で最先端のものであった。8) そのコースは、アラビア語を母語とする人によって教えられた。9) そのコースは、書くことではなく話すことに焦点を当てていた。10) 反復訓練や役割練習や視覚教材がかなり利用されていた。11) 翻訳や英語による説明を用いることはなかった。12) 私たちは基本的なアラビア語をいくつか学んだ。自己紹介の仕方、どこ出身かの述べ方、駅までの道の尋ね方などである。13) それから、私たちは、ウェイターと食事をする客、バスの車掌と乗客のような「実際の」状況で役割練習をした。14) この楽しい1週間の間に、私たちは「インシャラー」のように聞こえる表現を幾度も耳にした。15) (翻訳できない場合に教師が利用せざるをえない種類の)手振りや表情から、私たちはこの表現が何らかの不確かな状態を意味すると推測した。16) このようなコースでは、いくつかの語から成っている言葉なのかも知るすべがなかった。17) この「インシャラー」は3つの、あるいは、4つの音節を持っているように思えた。だから、おそらく「インシャラー」は、いくつかわからないが、4語以内の言葉だったのだろう。

- 6) ・Egyptian Arabic「エジプト・アラビア語」とは、エジプトで使われているアラビア語のこと。
- 7) ・for the timeは、「その時代としては、当時としては」の意味。
- 9) ・It focused on speech not writingは、B not A「AではなくB」(=not A but B)を用いた表現。
- 12) ・空所(1)については、【設問別解説】参照。
- 13) ・'realistic'に引用符(' ')がついているのは、筆者たちが会話学習のためにウェイターや客を演じているのであって、実際の場面ではないことを示すためである。引用符は、このように、その単語を文字通りの意味では使っていない場合に用いられることがある。
- 14) ・that sounded like *in-shā'llāh*はphraseを修飾する関係代名詞節。
- 15) ・下線部(2)については、【設問別解説】参照。
- ・teachers have to useはsortを修飾する関係代名詞節。
- ・that this phrase signified some kind of uncertaintyはgatheredの目的語となる節。
- 16) ・下線部(3)については、【設問別解説】参照。
- 17) ・ここでのany number ... up to fourは「1から4までのどの数で

- spoken「話される、口語の」
- colloquial「口語の、日常会話の」
- up-to-date「最新(式)の」
- focus on A「Aに焦点を合わせる、重点的に取り組む」
- considerable「かなりの、相当な」
- repetition「繰り返すこと」
- visual aid「視覚教材」
- translation「翻訳」
- explanation「説明」
- introduce O「Oを紹介する」
- and so forth「…など」
- act O out / act out O「Oを実演する」
- situation「立場、状況」
- role-play O「Oの役割練習をする」

もありうる」ということ。

- diner 「食事をする人」
- conductor 「車掌, 検札係」
- passenger 「乗客」
- in the course of A 「Aの間」
- encounter O 「Oに遭遇する」
- phrase 「言い回し, 表現」
- sound like A 「Aのように聞こえる」
- facial expression 「表情, 顔つき」
- sort 「種類」
- translate 「翻訳する」
- signify O 「Oを意味する」
- uncertainty 「不確かさ」
- seem to do 「…するように思える」
- presumably 「たぶん, おそらく」
- up to A 「Aに至るまで, 最高でAまで」

〈第3段落〉

18) I assumed that it meant something like 'perhaps,' but I wanted to know the meaning more precisely — I had a problem with the vagueness and imprecision of the 'knowledge' we were acquiring, and I was yearning for some explanation and translation. 19) But because there was strictly no English allowed and we were banned from asking such questions, I had to wait. 20) Then in conversation with our teacher outside the classroom, <sup>(4)</sup> I [what / this sequence / asked in / of / meant / English / sounds]. 21) The teacher answered that yes, *in-shā' llāh* means in effect 'perhaps.' 22) Then he added that literally it means 'by the will of God.' 23) More specifically, word for word: *in*=if; *shā*=wish; *llāh*=God — 'If wishes God.' 24) Nevertheless, he hastened to add, when Arabic speakers say *in-shā' llāh*, they basically mean 'perhaps.' 25) Conversely if I want to say 'perhaps,' I should say *in-shā' llāh*.

18) 「インシャラー」は「perhaps(たぶん)」のようなものを意味すると私は推測したが、もっと正確にその意味が知りたかった。つまり、私は、私たちが学んでいた「知識」の曖昧さと不正確さに納得がいかなかったし、ある程度の説明や翻訳を切に望んでいたのだ。19) しかし、英語の使用は厳禁だったし、そのような質問をすることを私たちは禁じられていたので、私は待たなければならなかった。20) その後、教室外での教師との会話の中で、この一連の音が何を意味するかを英語で私は尋ねた。21) 教師は、確かに「インシャラー」は実際には「perhaps(たぶん)」を意味すると答えた。22) それから、彼は、文字通りに言う「インシャラー」は「神の意志で」を意味すると付け加えて言った。23) もっと具体的に言うと、逐語的には、*in*=if, *shā*=wish, *llāh*=God, つまり、'If wishes God. 「もし神が望めば」であるということであった。24) それにもかかわらず、彼は、アラビア語話者が「インシャラー」と言う場合、基本的には「perhaps(たぶん)」を意味していると急いで付け加えた。25) 逆に、私が「perhaps(たぶん)」を言いたい場合、「インシャラー」を言うよりということだ。

- 18) ・ we were acquiring は 'knowledge' を修飾する関係代名詞節。  
19) ・ there was strictly no English allowed は、There is S done. 「S

- assume that ... 「…と仮定する、推測する」

が…される」を用いた表現で「厳格なまでに英語は許されることはなかった」が直訳。

20) ・下線部(4)については、【設問別解説】参照。

- precisely 「正確に」
- have a problem with A 「Aに納得がいかない」
- vagueness 「曖昧さ」
- imprecision 「不正確さ」
- acquire O 「Oを習得する」
- yearn for A 「Aを切望する」
- strictly 「厳しく、厳格に」
- allow O 「Oを許す」
- ban O from *doing* 「Oが…するのを禁止する」
- sequence 「連続するもの」
- in effect 「実際には」
- add that ... 「…とつけ加えて言う」
- literally 「文字通りに」
- will 「意志」
- specifically 「もっと具体的に言えば、すなわち」
- word for word 「逐語的に、文字通りに」
- nevertheless 「それにもかかわらず」
- hasten to *do* 「急いで…する」
- basically 「基本的には」
- conversely 「反対に、逆に(言えば)」

#### ＜第4段落＞

26) <sup>(5)</sup> Pupils trust their teachers — and I trusted mine. 27) A few months later, however, when I was living in Egypt, I had a difficult encounter involving this phrase. 28) In the block of flats where I lived together with another British volunteer and two *coopérants* (the French equivalent of VSOs), there was a janitor called Mahmoud, a friendly old man whose job was to do various things around the flats, such as clean the stairs, collect bottles, and chase away dogs and small boys. 29) So when one of the water pipes in our flat developed a leak, we asked Mahmoud to fix it — but <sup>(6)</sup> nothing happened. 30) Every day we asked him when it would be fixed, and every day he answered that it would be soon, *in-shā'-llāh*. 31) <sup>(7)</sup> Eventually I became frustrated and said in my broken Arabic that we needed a definite answer, not *in-shā'-llāh*. 32)

26) 生徒は自分の教師を信じるものだし、私も自分の教師を信じた。 27) しかし、数ヶ月後に、私がエジプトに住んでいたとき、この表現に関わるやっかいな経験をした。 28) 私が、もう1人の英国人のボランティアと2人の *coopérants* (フランスでVSOs(海外協力隊員)に相当する人)と一緒に住んでいた、ひと続きのアパートに、マフムードという管理人がいた。彼は親しみやすい老人で、彼の仕事は、階段を掃除したり、瓶を集めたり、犬や幼い子どもを追いかけるようなアパートに関する雑用をすることであった。 29) それで、アパートの水道管が1本水漏れを起こしたとき、私たちはそれを修理するようマフムードに頼んだのだが、何事も起こらなかった。 30) 毎日私たちは、いつそれを修理してくれるのかを彼に尋ねたが、毎日彼は、もうすぐだ、「インシャラー」と答えた。 31) 私はとうとういらだってしまったて、私のたどたどしいアラビア語で、「インシャラー」ではなくてはっきりした答



To my shock, the apparently easy-going Mahmoud was suddenly very upset, so much so that my previously good relations with him never recovered. 33) Even with my limited linguistic resources I understood the reason — too late. 34) For him, *in-shā'llāh* did not just mean 'perhaps,' ( 8 ) was part of a deeply felt religious view of the world and everything that happens in it.

えがほしいと言った。 32) 私がショックだったのは、おおらかそうに見えるマフムードが突然ひどく気分を害し、それがあまりのことだったので、これまでの彼とのよい関係が二度と元通りにならなかったことであつた。 33) 私の限られた言語知識ですら、その理由は理解できたが、あまりにも遅すぎた。 34) 彼にとって、「インシャラー」は、単に「perhaps (たぶん)」を意味するだけではなく、世界とそこで起こるあらゆることに対する、思いのこもった宗教的なものの見方の一部だった。

26) ・下線部(5)については、【設問別解説】参照。

27) ・involving this phrase は encounter を修飾する現在分詞句。

28) ・where I lived together ... は block of flats を修飾する関係副詞節。

・called Mahmoud は janitor を修飾する過去分詞句。

・whose job was to do various things around the flats ... は old man を修飾する関係代名詞節。

・around the flats は around A 「A のあちこちを、A のいたるところを」を用いた表現で「アパートのいたるところを」の意味。

・such as clean the stairs, collect bottles, and chase away dogs and small boys は A such as B 「(例えば)B のような A」を用いた表現で、A は do various things around the flats, B は clean the stairs ... 以下に相当する。

29) ・下線部(6)については、【設問別解説】参照。

30) ・we asked him when it would be fixed は <ask O + 疑問詞節> 「O(人)に…かを尋ねる」を用いた表現。

31) ・下線部(7)については、【設問別解説】参照。

32) ・To my shock は <to one's A(感情を示す名詞)> 「…が A であることには」を用いた表現で、「私がショックだったことには」の意味。

【例】To everyone's surprise, Eddie was really good in the school play.

(みんな驚いたことに、学校劇で見せたエディーの演技はとても上手だった)

・... Mahmoud was suddenly very upset, so much so that ... 「マフムードが突然ひどく気分を害し、それがあまりにそうだったので…」の so much so that ... の部分は、so ... that ~ 「とても…なので～」と、代用表現の so を用いた表現。2 番目の so は upset の代用となっている。

34) ・空所(8)については、【設問別解説】参照。

・a deeply felt religious view of the world and everything that happens in it 「世界とそこで起こるあらゆることに対する、思いのこもった宗教的なものの見方」は、a ... view of A 「A に対する…なものの見方」を用いた表現で、A の部分は、and で結ばれた the world と everything that happens in it で構成されている。

● trust O 「O を信用する」

● encounter 「出会い、遭遇」

● involve O 「O を伴う、O に関係する」

● block 「(住居・事務所から成る)建物、棟」

● flat 「アパート」

● equivalent 「同等のもの」

● stair 「階段」

● collect O 「O を集める」

● chase O away / chase away O 「O を追い払う」

● develop O 「O(問題・事故など)を起こす、O が生じる」

● leak 「漏れること」

● ask O to do 「O に…するよう頼む」

● fix O 「O を修理する」

● eventually 「最終的に、ついに」

● become frustrated 「いらだつ」

● definite 「明確な」

● apparently 「見たところは…らしい」

● easy-going 「のんきな、おおらかな」

● be upset 「気分を害する」

● previously 「以前に」

● recover 「回復する」

● limited 「限られた、わずかの」

● resource 「資源、資産」

● deeply felt 「思いが込められた」

● view 「見方、考え方」

## 【設問別解説】

### 問1 空所補充選択問題 ☆☆☆

空所(1)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) write poems in Arabic
- (イ) cook some local dishes
- (ウ) ask the way to the station
- (エ) teach Arabic to small children
- (ア) アラビア語で詩を書く
- (イ) 地元の料理を作る
- (ウ) 駅への道を尋ねる
- (エ) アラビア語を幼い子どもに教える

### 【ポイント】 筆者は何を学んだのか？

空所(1)に ask the way to the station 「駅への道を尋ねる」を入れると、how to introduce ourselves, say where we came from, ask the way to the station, and so forth 「自己紹介の仕方、どこ出身かの述べ方、駅までの道の尋ね方など」となり、第12)文で、筆者が some basic Arabic 「基本的なアラビア語」を学んだこと具体例として無理なくつながる。したがって正解は(ウ)である。

▶ 筆者が何を学んだかを知るには、第6)文の「エジプト・アラビア語の日常会話の1週間短期集中コース」という内容、第9)文の「そのコースは、書くことではなく話すことに焦点を当てていた」という内容もヒントになる。

▷ (ア)は、第9)文の「書くことではなく話すことに焦点を当てていた」という内容に反する。(イ)は基本的なアラビア語を学ぶことと関係がない。(エ)は、「学ぶ」のではなく「教える」という内容がおかしい。したがって、いずれも不可。

### 問2 下線部意味選択問題 ☆☆☆

下線部(2) gathered は、ここではどのような意味か。次の(ア)～(エ)の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) guessed (イ) accumulated
- (ウ) got together (エ) firmly grasped
- (ア) 推測した (イ) 蓄積した

- (ウ) 集まった (エ) しっかり把握した

### 【ポイント】 gather の意外な意味

下線部(2)を含む第15)文の構造は、We が主語、gathered が動詞、from から translate までは gathered を修飾する副詞的要素、that this phrase signified some kind of uncertainty が gathered の目的語である。gather from A that ... は「A から…と推測する」の意味なので、(ウ)が正解である。

【例】I gathered from her expression that she was angry with me.

(彼女の表情を見て、私に腹を立てていると思った)

▶ 仮にここでの gather の意味を知らなくても、文全体が、第14)文から登場する a phrase that sounded like in-shā'-llāh 「『インシャラー』のように聞こえる表現」の正確な意味を筆者が知りたいという文脈であることを理解し、第15)文の文構造を把握すれば、文意は「私たちはこの表現が何らかの種類の不確かな状態を意味すると(2)\_\_\_\_\_」となるので、選択肢より gathered に置き換えられるものが何かは、容易に推測できるだろう。

### 問3 下線部和訳問題 ☆☆☆

下線部(3)を和訳せよ。

(3) There was no way of telling, in a course like this, how many words were involved.

### 【ポイント】 ・ There is no way of doing ・ tell+疑問詞節

- ・ There is no way of doing は「…する方法はない」という意味。doing は動名詞。
- ・ tell+疑問詞節は「…かを知る、…かがわかる」という意味。本問では、how many words were involved が tell の目的語であることを把握することが重要。また、be involved で「関わる、関係している」の意味。「『インシャラー』と聞こえる言葉に)いくつの語が関わっているのか」ということは、その言葉が「いくつの語で成り立っているのか」ということ。
- ・ 副詞句 in a course like this が telling と how many

words were involved の間に挿入されている。like this の like は前置詞で「…のような」の意味。course は「コース、講座、一連の授業」の意味。

以上から「このような講座では、どれくらいの数の単語で成り立っているのか知る方法はなかった」と訳出できるが、文脈を汲んで「このようなコースでは、いくつかの語から成っている言葉なのか知るすべがなかった」とすると、よりわかりやすい日本語になる。

#### 問4 語句整序問題 ★★☆☆

下線部(4) I [what / this sequence / asked in / of / meant / English / sounds] の [ ] 内の語句を並べ換えて、正しい英文にせよ。

#### 【ポイント】 直後の文から文意を推測する

下線部の直後の第21)文に The teacher answered that yes, *in-shā'-llāh* means in effect 'perhaps.' 「教師は、確かに『インシャラー』は実際には『perhaps (たぶん)』を意味すると答えた」とあるので、筆者は「『インシャラー』が何を意味するのか英語で尋ねた」という旨の文になることが予想できる。したがって、

I asked in English what S meant  
(S) (V) 前置詞句 (O)

「S が何を意味するかを英語で私は尋ねた」が確定する。「インシャラー」に相当する表現は、this sequence of sounds 「この一連の音」と考えられるので、これを what 節の S に置く。したがって、I asked in English what this sequence of sounds meant. が正しい語順となる。

#### 問5 下線部意味選択問題 ★★☆☆

下線部(5) Pupils trust their teachers — and I trusted mine. は、ここではどのようなことを言おうとしたものか。次の(ア)~(エ)の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 生徒と教師の間には信頼感がなくてはならず、私も生徒を信頼していたこと。
- (イ) 生徒は教師が間違っているのも正しいと考えがちで、私もそうであったこと。
- (ウ) 生徒は教師を信頼するものだが、私は自分が正しいと思ったこと。
- (エ) 友人の教師よりも、自分の教師の方が正しいと考えるのがふつうだということ。

#### 【ポイント】 mine は何を表すか？

所有代名詞 mine = <my + (前出の)名詞> であるので、下線部(5)の mine は my teacher と考えられる。そこで、下線部(5)の意味は「生徒は自分たちの教師を信頼する。そして私は私の教師を信頼した」であると考えると、文意も通る。したがって、正解は(イ)となる。

▶ 「私は私の教師を信頼した」とは具体的にどういうことがわかれば、さらに容易に正解が得られる。第21)文から第25)文で、筆者は自分の教師が『インシャラー』は perhaps (たぶん) と考えてよい」という言葉を信じたことが読み取れる。

#### 問6 下線部説明問題 ★★☆☆

下線部(6) nothing happened は、ここでは具体的にどのような状況を述べたものか。句読点を含めて、25字以内の日本語で書け。

#### 【ポイント】 but に着目！

下線部の意味は「何も起こらなかった」だが、下線部の直前に but があるので「しかし、何も起こらなかった」とはどういうことを考えると、「何かが起こること」を期待していたことがわかる。そこで第29)文を見ると、So when one of the water pipes in our flat developed a leak, we asked Mahmoud to fix it 「それで、アパートの水道管が1本水漏れを起こしたとき、私たちはそれを修理するようマフムードに頼んだのだ」とあるので、「何も起こらなかった」とは「マフムードに頼んだアパートの水道管の水漏れの修理がされなかった」ということであるとわかる。これを制限字数内でまとめればよい。

▶ 続く第30)文の Every day we asked him when it would be fixed, and every day he answered that it would be soon, *in-shā'-llāh*. 「毎日私たちは、いつそれを修理してくれるのかを彼に尋ねたが、毎日彼は、もうすぐだ、『インシャラー』と答えた」の記述からも、「水道管の修理がされなかった」様子がうかがえるので、このこともヒントになる。

#### 問7 下線部和訳問題 ★★☆☆

下線部(7)を和訳せよ。なお、*in-shā'-llāh* は「インシャラー」と表記すること。

(7) Eventually I became frustrated and said in my broken Arabic that we needed a definite answer, not *in-shā'-llāh*.

・ say in A that ...

・ A, not B = not B but A

- ・ 文頭の Eventually は「ついに、とうとう」という意味の副詞。
- ・ I became frustrated は「私はいらだった」の意味。
- ・ in my broken Arabic は「私のたどたどしいアラビア語で」の意味で, said を修飾している。ここでの broken は「(言葉が)不完全な、片言の」の意味。
- ・ that we 以下は said の目的語となる節。
- ・ that we needed a definite answer, not *in-shā'-llāh* は A, not B 「B ではなく A」 (=not B but A) を用いた表現で, said の目的語である。

以上から「私はとうとういらだちまして、私のたどたどしいアラビア語で、『インシャラー』ではなくてはっきりした答えがほしいと言った」と訳出できる。

#### 問 8 空所補充選択問題 ★☆☆

空所(8)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から 1 つ選び、記号で答えよ。

(ア) but

(イ) or

(ウ) so

(エ) that

【ポイント】  
not just A but B

空所を含む第34)文は最終文なので、結論を述べている文だと考えられる。前半部では not just によって「『perhaps(たぶん)』を意味する」という既出の内容が導かれているので、空所以下の後半部で結論的内容が記されていると推測できる。そこで、not just A but B 「A だけでなく B も」を用いた文ではないかと考えて、空所に but を入れると「『インシャラー』は、単に『perhaps(たぶん)』を意味するだけでなく、世界とそこで起こるあらゆることに対する、思いのこもった宗教的なものの見方の一部だった」となり、この英文の結論としてふさわしい文となる。したがって、(ア)が正解。

#### 問 9 内容一致問題 ★★☆☆

本文の内容と一致するものを、次の(ア)～(エ)の中から 1 つ選び、記号で答えよ。

- (ア) The author chose Egypt as his first place to work because he didn't want to go to Jamaica.
- (イ) The author didn't ask what *in-shā'-llāh* meant because even outside the classroom, asking questions was strictly forbidden.
- (ウ) While living in Egypt, the author found that the phrase *in-shā'-llāh* implied more than just 'perhaps.'
- (エ) It took a long time for the author to clear up the misunderstanding with Mahmoud and make peace with him.

- (ア) 筆者はジャマイカに行きたくなかったのも、最初の勤務地としてエジプトを選んだ。
- (イ) 教室の外でさえ質問することは厳しく禁じられていたので、筆者は「インシャラー」が何を意味するか尋ねなかった。
- (ウ) エジプトに住んでいる間、筆者は「インシャラー」という表現が意味することが単に「perhaps(たぶん)」にとどまらないことに気がついた。
- (エ) 筆者がマフムードとの誤解を解き、彼と和解するのに長い時間がかかった。

第34)文および文全体の内容から、正解は(ウ)である。

▷(ア)は第2)文の内容から不可。

▷(イ)は第19)文で、英語で質問することは禁じられていたという旨が書かれているが、これは授業中の規則であり、実際に筆者は第20)文で、教室外でその意味を尋ねている。したがって、英文の内容に反するので不可。

▷(エ)は第32)文に、..., so much so that my previously good relations with him never recovered 「…それがあまりのことだったので、これまでの彼とのよい関係が二度と元通りにならなかった」とあることから、マフムードとは和解に至らなかったことがわかる。したがって、英文の内容に反するので不可。

## ⑤ 長文総合問題

### 【解答】

問1 (ウ)

問2 例外が1つある。知性の世界の革命家となる人々は、単にある学問分野の範囲内でのみ長足の進歩をとげる科学者たちとは対照的に、末っ子であった可能性が高い。

問3 本当に独創的で重要な業績は、約10年間の非常に厳しい訓練と実践の後で達成されるという考え方。(45字)

問4 (ニ)

問5 (イ)

問6 ある学問分野に対する情熱は、どこからともなく生じるわけではない——それは人が生まれつき持っている適性から生じることが多い。人は得意なことが好きになるからだ。

問7 偉大な先人たちの業績に依拠していても、それでもニュートンは他のどの科学者たちよりはるかに優れた洞察力があったということ。(60字)

### 【配点】(60点)

問1 5点 問2 13点 問3 10点

問4 5点 問5 5点 問6 10点

問7 12点

### 【テーマ】

科学の天才たちを研究すると次のようなことがわかってくる。彼らには、家庭環境や学業成績などでいくつも共通点があり、先天的な能力と本人の努力の両方が伴って、数多くの論文を発表しているケースが多い。努力だけではどうにもならず、生まれ持った能力が不可欠だが、特に芸術的と言えるような直観力が大発見につながる。天才は、知的な人々のネットワークの中から、ひととき輝いて現れる存在なのである。

【出典】DISCOVER 増刊号 “GENIUS” winter 2011

### 【本文解説】

#### ＜第1段落＞

1) What makes a scientific genius exceptional is the startling originality of the insights he or she produces. 2) Yet those great minds aren't as different from one another as we might imagine. 3) I've discovered that scientific geniuses ( 1 ) a few key traits and life circumstances. 4) They tend to be open-minded risk takers who come from conventional, educated, stable families. 5) They often succeed academically as children and go on to study under outstanding scientists. 6) And they tend to be firstborns. 7) <sup>(2)</sup> There is one exception: those who are intellectual revolutionaries, as opposed to scientists who simply make great strides within the boundaries of a particular field, are likely to have been the baby of the family.

1) 科学の天才を並外れた人に行っているのは、その人の生み出す洞察の驚くべき独創性である。 2) しかし、それらの知的巨人たちは、私たちが思うほどお互いに違ってはいない。 3) 科学の天才たちが、いくつかの重要な特徴と生活状況を共通に持っていることを私は見つけた。 4) 彼らは、標準的で教養のある安定した家庭の出身で、先入親にとらわれず危険をいとわない人物である傾向がある。 5) 彼らは多くの場合、子どもの時から学業面で優れた成績をおさめ、さらに進んで傑出した科学者たちの下で研究を続ける。 6) そして、彼らは第一子であることが多い。 7) 例外が1つある。知性の世界の革命家となる人々は、単にある学問分野の範囲内でのみ長足の進歩をとげる科学者たちとは対照的に、末っ子であった可能性が高い。

- 1) ・ What makes a scientific genius exceptional は、S make OC「S が O を C にする」の主語(S)が関係代名詞の what になった名詞節で、後に続く is の主語となっている。  
・ he or she produces は the insights を修飾する形容詞節。
- 2) ・ aren't as different 以下は、not as ... as ～「～ほど…ない」を用いた表現。

- scientific 「科学の」
- genius 「天才」
- exceptional 「例外的な、並外れた」
- startling 「驚くべき」
- originality 「独創性」

3) ・空所(1)については、【設問別解説】参照。

4) ・who come ... families は open-minded risk takers を修飾する関係詞節。

・conventional, educated, stable の3つの形容詞が families を修飾している。

5) ・and は succeed ... children と go on ... scientists を並列させている。

7) ・下線部(2)については、【設問別解説】参照。

- insight 「洞察(力)」
- mind 「(知性面から見た)人」
- one another 「お互い」
- discover that ... 「…であることを見つける」
- trait 「特徴」
- circumstances 「状況」
- tend to do 「…する傾向がある、…する場合が多い」
- open-minded 「心の広い、先入観を持たない」
- risk taker 「危険をいとわない人」
- come from A 「A(家族・血統)の出である」
- conventional 「普通の、型どおりの」
- educated 「教養のある」
- stable 「安定した、落ち着いた」
- academically 「学業面で」
- outstanding 「傑出した」
- firstborn 「最初に生まれた子、第一子」
- exception 「例外」
- intellectual 「知性の」
- revolutionary 「革命家」
- as opposed to A 「Aとは対照的に」
- make great strides (in A) 「(Aにおいて)長足の進歩をする」
- boundary 「(分野間の)境界」
- particular 「特定の」
- field 「(学問の)分野」
- be likely to do 「…する可能性が高い」
- the baby of the family 「家族の最年少者、末っ子」

#### 〈第2段落〉

8) Great minds are both born and made. 9) The “10-year-rule” holds that truly original and important accomplishments follow about a decade of highly concentrated training and practice. 10) <sup>(3)</sup>That concept, introduced in a 1970s study of chess players by William Chase and Herbert Simon, has egalitarian appeal. 11) I call it the drudge theory of genius: just keep sweating away and you, too, will have your eureka moment.

8) 偉大な頭脳は、生まれ持ったのものでもあり、作られるものでもある。9) 「10年ルール」は、本当に独創的で重要な業績は、約10年間の非常に厳しい訓練と実践の後で達成されるものとしている。10) その概念は、ウィリアム・チェイスとハーバート・サイモンによって1970年代に行われたチェスの選手についての研究で示されたものだが、それには平等主義の魅力がある。11) 私はそれを天才勤勉理論と呼んでいる。つまり、「ひたすら汗を流して

12) A scientist certainly must master his or her field before making world-class contributions. 13) But some people inherit a set of cognitive and personality traits (conscientiousness, for instance, or the ability to picture and mentally manipulate three-dimensional objects) that enable them to learn more quickly. 14) Further more, those with the most expertise don't always display the most creative genius. 15) Einstein, for example, was ( 4 ) the most expert theoretical physicist of his day.

努力し続ければ、あなたにも『わかった!』という瞬間が必ずやってきますよ』というわけだ。 12) 科学者が世界で一流の貢献を成し遂げる前に、その分野をマスターしなければならないことは確かだ。 13) しかし、より速やかな学習を可能にする認知面・人格面での一連の特性(たとえば精緻であることや、3次元の物体を思い描き、頭の中で操作する能力)を遺伝的に受け継ぐ人も中にはいる。 14) その上、最も高い専門的知識を持つ人々が、必ずしも最も独創的な天才を発揮するとは限らない。 15) たとえば、アインシュタインは決して同時代で最も熟達した理論物理学者ではなかった。

- 8) ・ both born and made とは、「生まれ持ったものでもあると同時に作られるものでもある」の意味。
- 9) ・ holds that ... の that 節内は, truly original and important accomplishments が動詞 follow の主語となっている。
- 10) ・ 下線部(3)については、【設問別解説】参照。  
・ 主語の That concept と述語動詞 has の間に introduced in ... Simon の過去分詞句が挿入されている。  
・ by William ... Simon は a 1970s study を修飾している。
- 11) ・ the drudge theory of genius 「天才勤勉理論」は「天才はこつこつ頑張る人である」という理論で、本文ではコロンの(:)以下でその内容が説明されている。  
・ just keep sweating away and ... は、<命令文 ..., and ~> 「…すれば～」を用いた表現。  
[例] Keep still! Move and I'll shoot you.  
(じっとしている! 動けば撃つぞ)
- 13) ・ ( )内の conscientiousness と the ability to ... objects は, cognitive and personality traits の具体例。  
・ that enable ... quickly は, cognitive and personality traits を修飾する関係詞節。
- 14) ・ those は「人々」の意味。
- 15) ・ 空所(4)については、【設問別解説】参照。

- hold that ... 「…だと考える」
- original 「独創的な」
- accomplishment 「業績」
- follow O 「Oの次に起こる」
- a decade of A 「10年間のA」
- highly 「非常に」
- concentrated 「厳しい, 集中した」
- concept 「観念, 概念」
- appeal 「魅力」
- drudge 「こつこつ頑張る人」
- keep doing 「…し続ける」
- sweat away 「汗を流して努力する」
- certainly 「確かに」
- world-class 「世界で一流の」
- contribution 「貢献」
- inherit O 「Oを遺伝的に受け継ぐ」
- a set of A 「一連のA」
- cognitive 「認識の」
- conscientiousness 「入念なこと, 精緻なこと」
- picture O 「Oを心に描く」
- mentally 「頭の中で」
- manipulate O 「Oを操る」
- three-dimensional 「3次元の」
- object 「物体」
- enable O to do 「Oが…できるようにする」
- furthermore 「その上に」
- expertise 「専門的知識, 専門的技能」
- display O 「Oを発揮する」

- expert 「熟達した」
- theoretical physicist 「理論物理学者」
- A of one's day 「…と同時代のA」

＜第3段落＞

16) Productivity is strongly associated with scientific success. 17) A study by Harriet Zuckerman shows that U.S. scientists who became Nobel laureates had about 60 publications by the time they were in their mid-forties. 18) Some scientists are mass producers, and others are perfectionists who produce just a few high-impact <sup>(5)</sup>gems. 19) Yet for the most part, quantity and quality are very highly correlated.

16) 多産性は科学における成功と強く関連している。 17) ハリエット・ズッカーマンによる研究は、ノーベル賞受賞者となったアメリカの科学者たちが40代半ばまでに約60本の論文を発表していたことを明らかにしている。 18) 多産な科学者もいれば、数本の影響力の高い珠玉のような論文だけを生み出す完全主義者の科学者もいる。 19) しかし、ほとんどの場合、質と量はきわめて強く関連し合っている。

- 16) ・ここでの productivity 「多産性」とは、論文を数多く発表すること。
- 17) ・who became Nobel laureates は U.S. scientists を修飾する関係詞節。
- 18) ・Some scientists と others (=other scientists) とが対比されている。
- ・who produce ... gems は perfectionists を修飾する関係詞節。
- ・下線部(5)については、【設問別解説】参照。

- be associated with A 「A と関連している」
- show that ... 「…であることを明らかにする」
- Nobel laureate 「ノーベル賞受賞者」
- publication 「論文出版、出版物」
- by the time S V ... 「…するまでに」
- in one's mid-forties 「40代半ばに」
- mass producer 「多産家」
- perfectionist 「完全主義者」
- high-impact 「影響力の高い」
- for the most part 「たいてい」
- quantity 「量」
- quality 「質」
- correlated 「関連し合った」

＜第4段落＞

20) Discipline and a strong work ethic are essential, but those attributes will not get you very far if you lack creativity or the ability to make the wide-ranging connections that lead to breakthroughs. 21) The interaction between innate talent and motivation is essential: young scientists who keep bumping up against their analytical limits are not likely to keep at it for long. 22) Without at least some innate talent, it is nearly impossible to sustain the drive needed for mastery. 23) <sup>(6)</sup>Passion for a field of study

20) 自制と強い労働倫理が不可欠だが、そうした特性があっても、独創性や、大発見につながる、広い範囲の事柄どうしを結びつける能力を欠いている場合には、大した業績は上げられないだろう。 21) 生まれつき持っている才能と動機づけとの相互作用が不可欠である。分析能力の限界に何度もぶつかり続ける若い科学者が、長い間頑張り続ける可能性は低いだろう。 22) 少なくとも何らかの生得的な才能がなければ、熟達するのに必要な意欲を持続することは、ほとんど不可能である。 23) ある学問分野に対する情熱は、どこからともなく生じるわ



doesn't come out of nowhere — it often springs from natural aptitude. 24) We like activities we're good at.

けではない——それは人が生まれつき持っている適性から生じることが多い。 24) 人は得意なことが好きになるからだ。

- 20) ・ those attributes は Discipline and a strong work ethic を指す。  
 ・ not get O very far で「O を遠くまで連れて行くわけではない」の意味から、本文では「O は大した業績を上げられない」の意味になる。  
 ・ wide-ranging connections は「広範囲の、一見無関係に思われる事柄の結びつき」の意味。  
 ・ that lead to breakthroughs は the wide-ranging connections を修飾する関係詞節。  
 21) ・ who keep ... limits は young scientists を修飾する関係詞節。  
 23) ・ 24) ・ 下線部(6)については、【設問別解説】参照。

- discipline 「規律、自制」
- ethic 「倫理、道徳」
- essential 「不可欠の」
- attribute 「特質、属性」
- lack O 「O を欠いている」
- creativity 「独創性」
- lead to A 「A を引き起こす、A につながる」
- breakthrough 「大発見」
- interaction 「相互作用」
- innate 「生まれつき持っている」
- talent 「才能」
- motivation 「動機づけ、意欲」
- bump up against A 「A(壁のようなもの)にぶつかる」
- analytical 「分析の、分析能力の」
- limit 「限界」
- keep at it 「頑張る」
- sustain O 「O を持続させる」
- drive 「意欲、動因」
- mastery 「熟達」
- passion 「情熱」
- out of nowhere 「どこからともなく」
- spring 「湧き出す、芽生える」
- natural 「生まれつきの」
- aptitude 「適性」
- activity 「活動」
- be good at A 「A が上手い、得意だ」

#### ＜第5段落＞

25) The German physicist Max Planck said that great scientists “must have a vivid intuitive imagination, for new ideas are not generated by deduction, but by an artistically creative imagination.” 26) Only by considering a possibility that was ruled out by classical physics — the idea that energy came in separate packets — was Planck able to solve a key problem and pave the way for quantum theory a century ago.

25) ドイツの物理学者マックス・プランクは、偉大な科学者は「活発な直観的想像力を持っていないといけない。というのも、新しい発想は、演繹的な思考によってではなく、芸術的と言えるような独創的イマジネーションによって生み出されるものだからだ」と語った。 26) 古典物理学ではありえないとされた可能性、すなわち、エネルギーがばらばらの小さな束になって伝わるという考えを検討することによって初めて、プランクは今から100年前に重要な問題を解決し、量子論への道を開くことができたのだ。

- 25) ・“must have ... imagination.”に引用符が付されているが、これは Max Planck が実際に語った言葉であることを示している。
- ・ for new ideas ... の for は接続詞で「というのだから」の意味。
- ・ not X but Y 「X ではなくて Y」の表現が使われ、X には by deduction, Y には by an ... imagination が置かれている。
- 26) ・否定語の Only が文頭にあるので、was Planck able to ... という倒置形の語順になっている。
- ・ that was ... physics は a possibility を修飾する関係詞節。
- ・ classical physics 「古典物理学」とは、19 世紀までの物理学のこと。ニュートンの力学とマックスウェルの電磁気学がその大きな柱になっていた。これに対して、20 世紀からの、特に量子力学以後の物理学を「現代物理学」と呼んでいる。
- ・ that energy ... packets は the idea に対する同格節。
- ・ pave the way for A で「A への基礎を築く、A への道を開く」の意味。

[例] The agreement will pave the way for restoring economic ties.

(その合意は経済的な結びつきを回復する道を開くことになるだろう)

- physicist 「物理学者」
- vivid 「活発な、生き生きとした」
- intuitive 「直観的な」
- generate O 「O を生み出す」
- artistically 「芸術的に」
- creative 「独創的な」
- consider O 「O をよく考える、検討する」
- possibility 「可能性」
- rule O out / rule out O 「O をありえないとする」
- come in A 「A(大きさ・容器など)で手に入る」
- separate 「個々別々の」
- century 「100年間」

#### ＜第 6 段落＞

27) With rare exceptions, the lone genius is a myth. 28) Creative genius is almost always embedded in a rich network of distinguished predecessors and contemporaries. 29) At the same time, we cannot deny that even in a Golden Age, some shine brighter than others. 30) Newton famously said that he stood on the shoulders of giants. 31) Even so, he still saw farther than all the rest.

27) まれな例外はあるが、天才が一人ぼっちで仲間がいないというのは根拠のない話である。 28) 独創的な天才は、ほとんど常に優れた先人や同時代の人々の豊かなネットワークに埋め込まれている。 29) とはいえ、どの黄金時代においても、一部の天才が他の天才より優れた素質を発揮するものだということは否定できない。 30) ニュートンが、自分は巨人たちの肩の上に立っているのだ、と語ったことはよく知られている。 31) そうではあっても、やはりニュートンは他のすべての人々より遠くが見えていたのだ。

- 27) ・ the lone genius 「孤立した天才」とは「一人ぼっちで仲間がいない天才」の意味。
- 29) ・ At the same time 「それと同時に」は、前文と対照的な内容を導いているので、「とはいえ」の意味になる。
- ・ some shine brighter than others は、主語 some 「一部の天才」が others 「他の天才」と比較され、shine 「素質を発揮する、他に抜き出る」が述語動詞となっている。ここでの bright は「明るく」の意味の副詞。
- 30) ・ he stood on the shoulders of giants の「巨人たちの肩の上に立っている」は、「自分は先人の知識と経験を礎にして科学の業績を築いた」ということを言い表したニュートンの有名な言葉に基づいている。
- 31) ・ 下線部(7)については、【設問別解説】参照。

- rare 「まれな、めったにない」
- myth 「根拠のない説」
- embed O 「O を埋め込む」
- distinguished 「優れた」
- predecessor 「前任者、先人」
- contemporary 「同時代の人」
- deny that ... 「…ということを否定する」
- Golden Age 「最盛期、黄金時代」

## 【設問別解説】

### 問1 空所補充選択問題 ★★☆☆

空所(1)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) invent
- (イ) research
- (ウ) share
- (エ) turn

### 【ポイント】

文脈上ふさわしい動詞はどれか？

空所を含む第3)文は、「科学の天才たちが、いくつかの重要な特徴と生活状況を( 1 )ことを私は見つけた」という意味。直前の第2)文には「しかし、それらの知的巨人たちは私たちが思うほどお互いに違っている点」があり、直後の第4)～6)文で具体的に「違っていない点」が説明されている。したがって、空所に(ウ)の share 「…を共有している」を入れると自然な流れになる。

▷他の選択肢は、(ア)の invent が「…を発明する」、(イ)の research が「…を調査する」、(エ)の turn が「…の向きを変える」という意味である。いずれも文脈に沿った意味のある文を作ることができないので不可。

### 問2 下線部和訳問題 ★★☆☆

下線部(2)を和訳せよ。

(2) There is one exception: those who are intellectual revolutionaries, as opposed to scientists who simply make great strides within the boundaries of a particular field, are likely to have been the baby of the family.

### 【ポイント】

- ・コロンの働き
- ・those who ...
- ・as opposed to A
- ・be likely to do

・There is one exception 「例外が1つある」の後ろのコロン(:)は、one exception の内容を具体的に説明する文を導いている。

・コロンの下は、those who are intellectual revolutionaries 「知的世界の革命家である人たちが」が主語で、are likely to have been ... 「…であった可能性が高い」がそれを受ける述語になっている。

・as opposed to scientists who simply make great strides within the boundaries of a particular field は、挿入句になっていて、as opposed to A 「A とは対照的に」の表現が使われている。Aにあたる scientists who ... a particular field は、主語の those who are intellectual revolutionaries とは対照的な人たちのことで、「ある学問分野の範囲内でのみ長足の進歩をとげる科学者たち」と訳出できる。simply 「ただ単に」に否定的なニュアンスが含まれることに注意。make great strides は「長足の進歩をとげる」という表現。ここでの field は「学問分野」の意味である。

・are likely to have been ... は「…であった可能性が高い」という表現。to have been という完了不定詞の形をとって「これまでの天才と呼ばれる人たちを調べてみたら、…だった」という含みを表している。

・the baby of the family は「末っ子」のこと。本問の直前の第6)文に「天才は第一子(firstborns)であることが多い」という旨の文があり、この下線部はその例外を述べる文であることから、意味を推測することは可能だろう。

以上から、「例外が1つある。知性の世界の革命家となる人々は、単にある学問分野の範囲内でのみ長足の進歩をとげる科学者たちとは対照的に、末っ子であった可能性が高い」と訳出できる。

### 問3 下線部内容説明問題 ★★☆☆

下線部(3) That concept の内容を、句読点を含めて50字程度の日本語で具体的に説明せよ。

### 【ポイント】

That に着目して、前文の内容を確認する

下線部(3)の That concept 「その考え方」は直前の第9)文の The “10-year-rule” を指すが、その具体的な内容は同じ第9)文の holds that ... 「…だと考える」以下に、truly original and important accomplishments follow about a decade of highly concentrated training and practice. 「本当に独創的で重要な業績は、約10年間の非常に厳しい訓練と実践の後で達成される」と説明されている。以上を50字前後でまとめることになるので、「本当に独創的で重要な業績は、約10年間の非常に厳しい訓練と実践の後で達成されるという考え方」のようになる。

▶ S follow O は「SはOの後に続く」の意味。第9)

文では、Sは truly original and important accomplishments, Oは about a decade of highly concentrated training and practice なので、「本当に独創的で重要な業績は、約10年間の非常に厳しい訓練と実践の後で達成される」の意味となる。

#### 問4 空所補充選択問題 ★☆☆

空所(4)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) by and large
- (イ) by far
- (ウ) by nature
- (エ) by no means

#### 【ポイント】 空所を含む文とその前文との対応関係に注意

空所(4)を含む第15)文は、「たとえば、アインシュタインは同時代で最も熟達した理論物理学者だった( 4 )」の意味。for example「たとえば」から、これは直前の第14)文の具体例になっており、「最も独創的な天才を発揮した人」で、「最も高い専門知識を持たなかった人」の例を提示する文なので、「アインシュタインは最も熟達した理論物理学者だった」ということを否定しなければならない。よって、選択肢の中で否定の意味を表す(エ) by no means「決して…でない」を入れればよいとわかる。

▷他の選択肢は、(ア)の by and largeが「概して、全般的に見て」、(イ)の by farが「(比較級・最上級を強めて)はるかに」、(ウ)の by natureが「生まれつき、もともと」の意味。

#### 問5 下線部内容選択問題 ★☆☆

下線部(5) gemsの意味として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 権威ある科学賞
- (イ) 優れた研究論文
- (ウ) 非凡な才能
- (エ) 利用価値のない研究

#### 【ポイント】 ・gemの比喩的な意味 ・段落全体の内容を考える

下線部(5)の gem はもともと「(カットして磨いた)宝石」だが、本文では比喩的に「(宝石のように)美しく貴重なもの、珠玉、逸品」の意味で用いられてい

る。下線部(5)を含む第3段落が「科学論文を生み出す能力」について述べているので、この「美しくて貴重なもの」は(イ)の「優れた研究論文」になる。

▶下線部(5)を含む第18)文は、Some scientists と others (=other scientists) を比較し、前者は「多産」なのに対して後者は「完全主義者」だと述べている。何を生産し、何を完全にしようとしているかは、その前の第17)文に publications として与えられているが、publication はもともと「出版、出版物」の意味なので、これを文脈から「論文発表、発表論文」と理解することが必要になる。

#### 問6 下線部和訳問題 ★☆☆

下線部(6)を和訳せよ。

(6) Passion for a field of study doesn't come out of nowhere — it often springs from natural aptitude. We like activities we're good at.

#### 【ポイント】 ・doesn't come out of nowhere の訳出 ・spring from A ・natural のここでの意味

- ・passion for a field of study は「ある学問分野に対する情熱」の意味で doesn't come の主語。ここでの field は「(学問の)分野」の意味である。
- ・doesn't come out of nowhere で「どこからともなく生じるわけではない」の意味。否定がくり返された表現になっている。
- ・ダッシュ(—)以下は、ダッシュの前の内容を言い換えたものになっている。
- ・spring from A で「A から生じる」の意味。
- ・natural aptitude で「生まれつき持っている適性」の意味。aptitude の意味を知らなくても、文脈から「才能」と訳すことは可能だろう。
- ・We like activities we're good at. は、前文の理由を付加的に記した文。
- ・we're good at「私たちが得意な」は activities を修飾する形容詞節。

以上から、「ある学問分野に対する情熱は、どこからともなく生じるわけではない——それは人が生まれつき持っている適性から生じることが多い。人は得意なことが好きになるからだ」と訳出できる。

#### 問7 下線部内容説明問題 ★☆☆

下線部(7) Even so, he still saw farther than all

the rest. の内容を、句読点を含めて60字以内の日本語で具体的に説明せよ。

【ポイント】

- ・so が前文の内容を受けている
- ・rest の意味

- ・下線部(7)の第31)文 Even so, he still saw farther than all the rest. は、直訳すると「そうではあっても、やはり彼は他のすべての人々より遠くが見えていたのだ」となる。
- ・Even so は、直前の第30)文「ニュートンが、自分は巨人たちの肩の上に立っていると語ったことはよく知られている」の内容を受けている。よって、Even so は「偉大な先人たちの業績に依拠している」との意味。

- ・主語の he は第30)文の主語 Newton を指し、それに対して文末の all the rest は「その他の(=ニュートン以外の)すべての人々」の意味。rest は「残りのもの[人]」の意味。

[例] Japan is ahead of the rest of the world in the field of electronic dictionaries.

(日本は電子辞書の分野で世界のどの国にも先んじている)

- ・saw farther は直訳では「より遠くを見ていた」となるが、ここでは「科学的な洞察力が抜きん出ている」ということを表している。

以上を60字以内にまとめると、「偉大な先人たちの業績に依拠していても、それでもニュートンは他のどの科学者たちよりはるかに優れた洞察力があったということ。」となる。

## ⑥ 英作文

### A 整序英作文

#### 【解答】

1. *I quickly wrote the phone number (on a piece of paper that happened to be nearby).*
2. *Can I (make it absolutely clear that we did not intend this to occur)?*
3. *The employee (sent to respond to the customer's complaints sounded irritated about) the whole business.*
4. *It (was all thanks to the effort and commitment of everyone involved that) the party was a great success.*

#### 【配点】(16点)

各4点×4

#### 【解説】

##### 1. ★★★

【ポイント】

- ・主格の関係代名詞 that
- ・happen to do

「紙に(その電話番号をメモした)」は、「1枚の紙の上に(その電話番号をメモした)」と考え(wrote the phone number) on a piece of paper とする。「たまたまその辺にあった」は、「たまたま近くにあった」と考え、happen to do 「たまたま…する」と be nearby 「近くはある」を用いて happened to be nearby とする。さらに主格の関係代名詞 that を使って that happened to be nearby とすると a piece of paper を修飾する節になる。以上から I quickly wrote the

phone number on a piece of paper that happened to be nearby. が正しい語順となる。

##### 2. ★★★

【ポイント】

- ・形式目的語 it
- ・make O C
- ・intend O to do

「…ということを何としても明らかにしたいのですが」は「私は…ということを完全に明らか(な状態)にしてもいいですか」と考え、形式目的語 it と make O C 「OをC(の状態)にする」が組み合わされた make it C that S V 「…ということをC(の状態)にする」を用いて、Can I make it absolutely clear that ...? とする。真目的語となる that 以下の「私たちはこんなことが起こるのを意図していなかった」は

intend O to do 「Oが…するよう意図する」を用いて、we did not intend this to occur とする。以上から、Can I make it absolutely clear that we did not intend this to occur? が正しい語順となる。

### 3. ★★★

【ポイント】

- ・過去分詞の形容詞用法
- ・sound C
- ・be irritated about A

まず、「…に行かされた従業員は」は「…に派遣された従業員は」と考え、send O to do 「…させるためにO(人)を派遣する」を過去分詞で用い、主語を修飾して The employee sent to ... とする。続いて、このsentを修飾する「客の苦情の対応に」は「客の苦情に対応するために」と考え、to respond to the customer's complaints とする。最後に、「この厄介ごととにいらいらしている口ぶりだった」は「この厄介ごととにいらいらしているように(聞いて)思えた」と考え、sound C 「Cに聞こえる、(聞いて)Cに思える」と be irritated about A 「Aにいらいらする」を組み合わせた sound irritated about A を用いて、sound-  
ed irritated about the whole business とする。以上

から、The employee sent to respond to the customer's complaints sounded irritated about the whole business. が正しい語順となる。

### 4. ★★★

【ポイント】

- ・強調構文
- ・all thanks to A
- ・A(名詞)+involved

「…の努力と献身のおかげだ」は、all thanks to A 「何もかもAのおかげである」を用いて、all thanks to the effort and commitment of ... とする。allはthanks to ... を強める副詞。「関わった全員」は<A(名詞)+involved> 「関係しているA」を用いた everyone involved で表すので、all thanks to the effort and commitment of everyone involved が確定する。この部分を強調構文によって強調する形にして It was と that の間に置くと、It was all thanks to the effort and commitment of everyone involved that となる。以上から、It was all thanks to the effort and commitment of everyone involved that the party was a great success. が正しい語順となる。

## B 条件英作文

### 【解答例】

1. (Once you have got used to looking up English words in an electronic dictionary), *you will no longer want to use a paper dictionary.*
2. *He* (arrived at the hall ten minutes before the classical music concert began).

### 【配点】(14点)

1. 7点    2. 7点

### 【解説】

#### 1. ★☆☆

【ポイント】

- ・「…するのに慣れる」の表現
- ・「いったん…すると」の表し方
- ・「辞書で…を調べる」の表現

・「…するのに慣れる」は get used [accustomed] to doing を使って表すことができる。

【例】He got used to living alone.

(彼はひとり暮らしに慣れた)

・「いったん…すると」は once S V ... を用いて表す。

【例】Once you have begun, you must continue.

(いったん始めたら、続けないとだめです)

「いったん…するのに慣れてしまうと」は Once you have got used to doing とする。また、本問での Once 節中の時制は現在完了にするのが最も適当である。

・「電子辞書で英語の単語を調べる」は、look O up [look up O] in a dictionary 「辞書でOを調べる」を用いて、look English words up [look up English words] in an electronic dictionary とすればよい。

以上から、Once you have got used to looking up English words in an electronic dictionary, you will no longer want to use a paper dictionary. のように書けばよい。

▷ get used to に後続しうるのは、名詞・代名詞または動名詞なので、get used to look up English words

in an electronic dictionary とするのは不可。

## 2. ★★☆☆

### 【ポイント】

- ・「…する X 分前に」をどう表すか
- ・「…に到着する」の表現

- ・「…する X 分[時間/年]前に」は X minutes [hours / years] before ... で表す。「そのクラシックコンサートが始まる 10 分前に」は ten minutes before the classical music concert began とすればよい。
  - ・「ホールに到着する」は arrive at / get to / reach を用いて、arrive at the hall / get to the hall / reach the hall とする。
- ▶「…する X 分[時間/年]後に」であれば、X minutes

[hours / years] after ... で表せばよい。

【例】 That happened three years after he came to Japan.

(それは彼が日本に来て 3 年後に起こった)

- ▶ 過去完了形を用いて、He had arrived at the hall ... としてもよいが、「彼がホールに到着した」のは「コンサートが始まる」より前のことであることが before を使うことで明らかなので、過去形で表せばよい。
- ▷ 「クラシック(音楽)」は classic music ではなく、classical music が正しい表現であることに注意。
- ▷ reach は「…に着く」という意味では他動詞で用いるので、reached to the hall とはならないことに注意。

## C 本格英作文

### 【解答例】

When addressing someone affectionately, you sometimes put “my” before the person’s name, and people used to use “mine” instead of “my” when the name began with a vowel.

【別解】 When we talk to someone with affection, we sometimes use “my” before the name, but in the old days “mine” was used in place of “my” if the name began with a vowel.

【配点】 (15点)

### 【解説】

★★★

### 【ポイント】

- ・下線部全体の主語をどう考えればよいか?
- ・「呼びかける」「my」ではなく“mine”をどう訳すか?

#### ●「親愛の情をこめて呼びかけるとき」

- ・「呼びかけるとき」の「呼びかける」は address someone とするのが最も自然。someone のような目的語が必要な点に注意する。call to someone も使えるが、call someone は「呼び出す、呼び寄せる」などの意味になり、本問では不適。「話しかける」と読みかえて talk to someone / speak to someone を用いるのは可。「呼びかける」の目的語は不特定の人物なので someone が最適であり、この目的語を省略することはできない。「…するとき」は When doing を用いると簡単に表せる。もちろん、SV を示して When you [we / people] do としてもよい。この部

分は現在のことに言及しているので時制は現在形を使う。

- ・「親愛の情をこめて」は affectionately がもっとも自然な表現。with affection もほぼ同じ意味となる。これを with love とすると少しニュアンスが変わり、家族間や恋人同士のような濃厚な関係が連想されるが、許容できる表現である。from affection や out of affection とすると「親愛の気持ちが原因となって」呼びかけることになるので、好ましくない。
- 「名前の前に“my”をつけることがあるが」
- ・「名前の前に“my”をつける」は you [we / people] put “my” before the person’s name とする。「つける」は put, place, use などが好ましい。add は add A to B で「AをBの後につけ加える」という意味で用いることが多く、ここでは不自然な印象を受ける。「名前」は前述の「親愛の情をこめて呼びかける」相手の名前なので、the person’s [his or her / their] name とするか the name とする。
- ・「…することがある」とは「…することもしないこともある」という意味であり、「時々…する」と同意で

ある。したがって sometimes が最適。

●「以前は名前が母音で始まる場合には“my”ではなく“mine”が用いられた」

- ・「以前は…した」は、used to do を用いるのがよい。

「以前」を副詞で表すなら in the old days, in the past, long ago などを用い、そのうえで動詞を過去形にする。in those days は「その当時」という意味で、具体的にどの頃なのかを先に表さなければならぬので、ここでは不可。

- ・“mine”が用いられた」は【解答例】にあるように people used to use “mine”などの能動態で表すことも、【別解】のように “mine” was used などの受動態で表すことも可能。能動態を用いる場合、ここは過去に言及している部分なので、現在の人を意味する you / we ではなく、過去の人を表すことのできる people / they を主語にするのが自然。また、「用いられた」の動詞には use, put が好ましい。ここでは「名前の前に“my”をつける」の部分とは異なり、place を使うことはできない。「名前の前に」のように place する具体的な場所が示されていないと使えないからである。

- ・“my”ではなく」は「“my”の代わりに」と考えて instead of “my”, in place of “my”などとする。without using “my”は一見、「“my”を使わずに」という意味で正しい表現に思えるかもしれないが、ここでは使えない。A instead of B は「BではなくA」という意味であり、AとBは同時にすることができない行為である。これに対して A without B はAとBとを同時にできる場合に用いる。たとえば「どこにも行かずに1日中寝ていた」という日本語を英語にする場合、「どこかに行く」という行為と「1日中寝ている」という行為は同時にはすることができないため、

(○) I stayed in bed all day instead of going anywhere.

(×) I stayed in bed all day without going anywhere.

となる。これに対し、「何も食わずに1日中寝ていた」という日本語を英語にする場合であれば、「何かを食べる」という行為と「1日中寝ている」という行為は同時にできるため、

(○) I stayed in bed all day without eating anything.

(×) I stayed in bed all day instead of eating anything.

となる。

- ・「名前が母音で始まる場合には」における「AがBで始まる」という表現は、A begins with B を覚えておくといよい。以前のことを述べている箇所なので、ここでは動詞を過去形にすること。「場合には」は「(…する)時には」もしくは「(…する)ならば」と考え、when the [a] name began with a vowel / if the [a] name began with a vowel とする。

【全訳例】

In the English-speaking world, there are some traditional nicknames, such as “Rich” or “Dick” for “Richard”, and “Will” or “Bill” for “William”. A person named “Anne” is often called “Nan” or “Nancy”, and these nicknames have their origins in the history of the English language.

When addressing someone affectionately, you sometimes put “my” before the person’s name, and people used to use “mine” instead of “my” when the name began with a vowel. For example, “Meg” was called “my Meg”, and “Anne” was called “mine Anne”. And because “mine Anne” sounded like “my Nan”, “Nan” started to be used as a nickname for “Anne”.



## 受験直後の復習が大きな差を生む!!

## 自己採点シート

## 第2回 全統記述模試

クラス	番号	氏名
-----	----	----

## 【シートの使い方】

- ①問題冊子と「学習の手引き」にしたがって自己採点してみましょう。  
②満点に対してどれだけ得点できたかを設問ごとに比較し、「特に克服・補強すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。  
③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。  
→さらに個人成績表の返却後、統計集についている「見直しシート」を活用して、復習を万全にしましょう!!

## 総合計(第2回全統記述模試)

自己採点

実際の得点

成績表の返却後、得点を記入しましょう。

教科・科目	設問ごとの得点							合計	今後の課題と学習プラン	第2回全統記述模試 得点
	1	2	3	4	5	6	7			
英語	リスニング	15 ☆	15 ☆	20 ☆	60 ☆	60 ☆	45 ☆	200		200
	小問集合	60 ☆	40 ☆	40 ☆				100		100
数学 Ⅰ・ⅠA型	小問集合	50 ☆	50 ☆	50 ☆	50 ☆	50 ☆	50 ☆	200		200
	小問集合	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	160		160
数学 ⅠB・ⅠC型	小問集合	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	160		160
	小問集合	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	160		160
現代文型	現代文(評論)	60 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	240		240
	現代文(評論)	60 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	240		240
現・古・漢型	現代文(評論)	60 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	240		240
	現代文(評論)	60 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	40 ☆	240		240
物理	数柱の共通	33 ☆	34 ☆	33 ☆	34 ☆	33 ☆	33 ☆	260		260
	数柱の共通	33 ☆	34 ☆	33 ☆	34 ☆	33 ☆	33 ☆	260		260

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

# 受験直後の復習が大きな差を生む!!

## 【シートの使い方】

- ①問題冊子と「学習の手引き」にしたがって自己採点していきましょう。
  - ②満点に対してどれだけ得点を設問ごとに比較し、「特に克服・精進すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。
  - ③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。
- さらに個人成績表の返却後、統計集についている「見直しシート」を活用して、復習を万全にしましょう!!

成績表の返却後、得点を記入しましょう。

教科・科目	設問ごとの得点							合計	今後の課題と学習プラン	第2回全統記述模試 得点
	1	2	3	4	5	6	7			
化学	酸化還元	脂防族化合物	金属イオンの性質、結晶格子	気体	金属イオンの性質、中和滴定	化学反応と平衡関係				
	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆	/30 ☆	/20 ☆	/20 ☆		/100		/100
生物	植物の生殖	神経	遺伝子	呼吸	排出	光合成				
	/25 ☆	/25 ☆		/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆		/100		/100
地学	地球内部の構造と組成	地殻を構成する岩石	地質図	大気中の水蒸気	宇宙の構造	恒星の進化				
	/20 ☆	/20 ☆		/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆		/100		/100
世界史B	カイロをめぐる諸勢力の興亡	16・17世紀のヨーロッパ	朝鮮半島の歴史	ヨーロッパにおける産業革命の進展とその影響						
	/25 ☆	/24 ☆	/26 ☆	/24 ☆				/100		/100
日本史B	藤原不比等と律令国家	清和源氏の台頭と鎌倉幕府の成立	徳川と士一揆	鎖国下の外交・貿易						
	/20 ☆	/30 ☆	/30 ☆	/20 ☆				/100		/100
地理B	地形図の読み図	工業	発展途上国の諸問題	アメリカ合衆国の地域						
	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆				/100		/100
政治・経済	国民所得と産業構造の変化	景気変動と金融・財政政策	日本の平和主義と人権保障	東西冷戦とその終結後の国際社会	公害・環境・消費者問題					
	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆			/100		/100
倫理	東洋の源流思想	江戸時代の思想	近代合理主義の暴力性	科学技術と倫理	民主社会の倫理					
	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆			/100		/100

\* 選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にておきましょう。

キリトリ

キリトリ











